

銚田市地域おこし協力隊 活動報告書

銚田市地域おこし協力隊 彦田真吾



目次

1. ご挨拶	1P
2. 自己紹介	3P
3. 地域おこし協力隊の概要	4P
4. 地域おこし協力隊のメリット・デメリット	6P
5. 業務内容(農業研修)	9P
6. 業務内容(情報発信)	34P
7. 銚田市に移住して、生活してみて感じたことまとめ	40P
8. 銚田市への提案	43P
9. おわりに	44P

1. ご挨拶

初めまして、彦田真吾(ひこたしんご)と申します。

東京での会社員生活を辞めて、妻とこどもの3人家族で茨城県銚田市に移住しました。

移住した目的は、「まったくの未経験から農家になる」ためです。なぜ農業か？それは「農業に魅力を感じている」ということと「家族との時間を大切にしたい。家族と一緒にいたい」という思いが大きな理由です。

農業って魅力に溢れていると思っています。植物は毎日表情が変わり、反応も複雑。天候・気候にも左右されてリスクも多いですが、頭を使い、身体を使い、経験を積み知恵を生かして作物を育てていく。自分の味をつくっていくということは難しさのなかに楽しさが詰まっています。「おいしいものをつくる」ために、目の前の状況を観察・考察して次の準備にとりかかる。「おいしいものをつくる」という仕事に、私はかっこよさと喜びを感じます。

また、私は学生時代から自身で事業を立ち上げたい想いを持っていました。当時は農業を営むということは考えてもいませんでしたが、人生は面白いです。

家族と一緒にいる時間は、会社員時代に比べてとても長くなりました。これから独立して家族で農業が始まればもっと一緒にいる時間は増えます。また「もっとこうしたほうが良いよね」など、議論をして仕事を一緒に考えて進めることができます。これは夫婦が同じ仕事でないといけないことですし、とても嬉しいことです。

私たちが仕事をしている風景を子どもに見てもらえるということも農業の魅力のひとつだと思います。私が子どもの頃、父は東京で会社員として働いていましたが、父が毎日どのような人とどのような仕事をしているのか、よく分かっていませんでした。

私が妻と農業を営んで、「パパとママはおいしいものをつくるおしごとをしている」ということを知ってもらい、どのような姿勢で仕事に取り組んでいるか、子どもに私たちの姿を見てもらえるということは親の私たちにとって嬉しいことです。

一方、農業は従事する時間が長いため、子どもとの時間が多く取れなくなってしまう懸念があります。これは今後の課題です。

「農家になる」という目的を具体的に達成するためには、経済面を考慮することはとても重要です。そこで、ご縁を頂いた「地域おこし協力隊」の制度を活用させて頂きました。

「地域おこし協力隊」とは、地方における地域力の維持強化を図る取組みです。

私の業務内容は主に①農業支援に関する業務、②地域の魅力向上に関する業務の2つ。

①農業支援に関する業務は、新規就農に向けた知識及び技術の習得を目的として農家さんの元で農業研修を行うこと。②地域の魅力向上に関する業務では、SNSを通して銚田市の魅力

を発信することです。

この度、おかげさまで自身が営む農地がみつきり、2020年秋からいよいよ営農を始めることになりました。

「地域おこし協力隊」を卒業することになりましたこの機会に、これまでの活動や銚田市での暮らしを振り返ろうと思います。

東京で会社員をやってきて、完全未経験から農家を目指している私の経験が、新規就農に興味を持つ方の参考になれば嬉しいです。

銚田市地域おこし協力隊 彦田真吾

2. 自己紹介

簡単に私の自己紹介をさせていただきます。

名 前:彦田真吾(ひこた しんご)

年 齢:33 歳

家 族:妻と 2 歳の子ども 1 人の 3 人家族

生まれ:神奈川県横浜市

趣 味:音楽鑑賞と、車の中で熱唱すること(※感情はかなり込める)

銚田市の好きなところ:

- ①農業が主要産業ですごい農家さんがたくさんいらっしゃる場所
- ②海・サーフスポット、スケートボードパークがあり横乗りスポーツが好きな方には垂涎もののロケーション



【生い立ち】

- ・神奈川県横浜市で生まれる。
- ・4 歳でとなりの神奈川県川崎市に引っ越してから社会人になるまでずっと川崎で暮らす。
- ・高校時代、米国の音楽バンド「Red Hot Chili Peppers」のあまりのカッコよさに自分の人生を見つめなおす。自分は音楽でごはんを食べていく。と決意。
- ・大学に入りバンドを結成。ボーカルを担当。
→音楽センスが皆無という衝撃の事実が発覚。
- ・大学卒業後、商社に営業として入社。東京で勤務。
→商売のいろはを実践で学ぶ。プロジェクトマネージャー・海外でのビジネス・新規事業等々。
→就職後もバンド活動は続け、路線変更でボイストレーナーでの起業を目指すも、自分の才能開花を待てず泣く泣く諦める。

【農家になるため銚田市に移住したきっかけ】

- ・2015 年に会社で農業関係の事業立上げメンバーになり、「人生で初めて」農業に関わることに。同年から茨城県銚田市のいちご篤農家「村田農園」と一緒に仕事をするようになり、やがて自分で農業を営みたい思いが芽生える。
→同年末から、毎週末プライベートで村田農園へ通い、個人的に研修を受けさせて頂くようになる。
- ・準備期間を経て 2018 年、農家を目指すべく会社を辞めて銚田市へ移住。
→「村田農園」にて本格的に農業研修開始
- ・2019 年 1 月、銚田市地域おこし協力隊を拝命 活動スタート

3. 地域おこし協力隊の概要

○地域おこし協力隊ってなに？

銚田市地域おこし協力隊として活動している私ですが、そもそも地域おこし協力隊制度についてよく知らないという方は多いと思います。そこで、私の活動内容を振り返る前に簡単にこの制度について説明させていただきます。

地域おこし協力隊制度は、平成 21 年度より総務省によって制度化された取り組みです。

以下、総務省のホームページからの引用です。

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組(引用元:総務省ホームページ「https://www.soumu.go.jp/main_content/00610488.pdf」)。

地域おこし協力隊を端的に説明すると、「意欲ある都市部の人材を地方へ誘致し、その地域で働きつつ定住・定着を図る取組み」のことです。地域おこし協力隊制度実施後、全国的に制度を採り入れる自治体は右肩上がりに増え、平成 30 年度では 1061 の自治体が地域おこし協力隊の受け入れを行っています。また、受け入れ自治体の増加に伴い、地域おこし協力隊になる隊員も増え、平成 30 年度では全国各地で 5359 名の隊員が活動しています。

私の場合は、もともと神奈川県に在住しており、都内企業に勤務していましたため、上記説明でありました「都市部の人材」に合致します。そして、地域おこし協力隊になるため移住した先が銚田市であり、これが上記内容の「地方」にあたります。

地域おこし協力隊の任用形態は各自治体によって違いがありますが、主に以下の 3 つの形態で任用されていることが多いです。

- ①一般職 非常勤職員(地方公務員法第 17 条)
- ②特別職 非常勤職員(地方公務員法第 3 条 3 項 3 号)
- ③委託契約(首長から委嘱)

※平成 31 年度における任用形態です。

私の場合は、①一般職 非常勤職員、つまり銚田市の臨時職員として活動を行ってきました。任期は毎年更新する必要がありますが、最長3年間隊員として活動することができ、私は平成 31 年 1 月より約 1 年 3 か月の間、銚田市地域おこし協力隊として活動してきました。

○銚田市における地域おこし協力隊

銚田市は、平成 29 年度より地域おこし協力隊の募集を始め、平成 30 年度に採用された私が、銚田市地域おこし協力隊初任用でした。

募集の方法ですが、銚田市では主に、①ホームページ募集、②説明会やイベントでの募集をしています。当初私が銚田市での地域おこし協力隊の制度を知るきっかけとなった、銚田市公式ホームページでは以下のように掲載されていました。

銚田市地域おこし協力隊募集のお知らせ



銚田市は、茨城県の東部に位置し、北は関東唯一の汽水湖 潟沼に、南は日本で2番目の大きさを誇る湖 霞ヶ浦 北浦に接し、東は太平洋 鹿島灘に面した自然豊かな土地であります。その内陸部のほとんどは平坦な土地となっており、豊かな自然と温和な気候を活かした農業が基幹産業であり、2017年市町村別農業産出額は全国3位、野菜部門は全国1位の日本で一番野菜をつくる街として知られております。主な作物は、メロン、いちご、さつまいも、トマトなどが挙げられ、首都圏全体に出荷しております。また、3面に接する湖と海を活かしたウォータースポーツ・マリンスポーツも盛んであり、特にサーフィンなどは全国有数のスポットとして知られております。

銚田市は、3大都市圏などの都市部に生活の拠点を置く人材を誘致し、地域力の維持強化を図ることを目的として、地域おこし協力隊を募集します。活動内容は次のとおりです。

1 活動内容

(1)移住・定住に関する業務 起業や創業をお考えの方が移住・定住の魅力を感じていただけるようなPRや受入体制づくり、支援のあり方の提案など
(2)地域の魅力向上に関する業務 地域資源となるような写真や動画といったコンテンツの収集・記録・蓄積を通じ、さらなる魅力発見・効果的な情報発信を行う
(3)観光振興に関する業務 外からの目線で価値の再発見や体験メニューのブラッシュアップなど
(4)農業支援に関する業務 地域の農業の手伝いをしながら、将来的な就農を見据えた技術の習得など

○その他の業務

- ・市が主催する行事等への協力
- ・地域が主催する行事等への協力
- ・隊員向け研修会等への参加
- ・活動情報等の発信(ブログ、ツイッター、フェイスブック等)
- ・その他、地域力の維持・強化に資するために必要な活動

私の場合は、「(4)農業支援に関する業務 地域の農業の手伝いをしながら、将来的な就農を見据えた技術の習得など」が主な業務であり、兼務として「○その他の業務 ・活動情報等の発信(ブログ、ツイッター、フェイスブック等)」の活動を行いました。活動内容については、「5.業務内容(農業支援)」と「6.業務内容(情報発信)」で詳しく説明します。

4. 地域おこし協力隊のメリット・デメリット

○メリット

(1)新規就農に向けたスモールステップ

一番のメリットは、お金をもらいながら農家さんのもとの農業の勉強ができるということです。銚田市へ移住して農業研修を行う際、家族では「家計がマイナスにならないこと」を最低ラインとして工夫していくことを決めていました。自己資金を就農資金に充てるためです。

農林水産省や各都道府県でも、新規就農を目指す人への研修に関する助成金制度をいくつか設けています。どの制度を利用するか考えた末、私は地域おこし協力隊を選び、活動させて頂くことになりました。

私の場合はこの他にもフリーランスで個人事業を行い、生計を安定させながら活動しました。

(2)銚田市のことを学べる

地域おこし協力隊としての活動を行うにあたり、市役所職員の方に銚田市全域を車で案内して頂いて、市内の主要スポットや歴史を学ぶ機会を頂きました。

銚田市とのつながりは 2015 年の会社員時代から始まってはいましたが、当時は村田農園と近隣のごはん屋さんへ行くことが主で、市全域のことは分かっていませんでした。

各スポットで働いている方から説明を頂いたり、私から農家を目指して勉強していますなどのお話をして、その後交流が生まれたりと、良い経験をさせて頂きました。

訪問させて頂いたスポットでは、生産量日本一のメロン産地の選果場「JA 茨城旭村」が一番印象深かったです。選果現場を見学させて頂いて、1日に何万個ものメロンが選果・梱包・出荷されている光景は圧巻でした。

銚田市は「平成29年度市町村別農業産出額野菜部門」で全国第1位。「日本でいちばん野菜をつくる街」です。銚田市への移住前はなかなか意識することはなかったのですが、関東のスーパーには銚田市産の野菜が多く並んでいます。関東の台所を一手に引き受けている。というとおおげさですが、野菜の大産地なのです。この銚田市で農業について学べたことは自信になっています。

また茨城県銚田市は、古くは常陸国(ひたちのくに)に属していて古事記や風土記にも記載がある歴史深い地域です。公民館を訪問すると遺跡情報や当時の剣や土器などの貴重な資料があつてとても興味深かったです。

(3)おいしいものを知ることができる

「メロンなら〇〇さん家のがおいしい」「スイカなら～」「いちごなら～」と、皆さんお気に入りの農家さんがいます。

教えて頂いた農家さんの作物を買って食べると、本当においしい。中でも銚田市で出会ったいちご、メロン、スイカは人生で一番おいしかったです。

名産品として特筆したいのはもちろんいちごですが、春から秋に出荷されるメロンの味は格別です。またサツマイモの生産量も多く、干しいもや冷やし焼き芋が有名です。「冷やし焼き芋」は、矛盾をついたネーミングにセンスを感じます。

銚田暮らしになってから、神奈川の実家や地元の友人に贈るお土産はもっぱら農産物になりました。

○デメリット

(1)時間の使い方について

農業は自然が相手ですので早い時では朝 5:50 から仕事が始まります。土日・平日というのはあまり関係なく、また季節によって繁忙期・農閑期があります。

一方で、地域おこし協力隊は銚田市の臨時職員となり、基本的な勤務時間は平日 8:30～17:15。土日祝日がお休みで、市役所の方々と同じタイムスケジュールです。時間軸に差があり、研修現場での仕事は市役所規定の勤務時間の型にはまってはいませんでした。

平日1日7時間 45 分、週5日の勤務時間では、農業未経験の私には覚えることが多すぎて、自分のモノにするには不十分です。まして、2020年秋に新規就農するという目標があり、就農に向け自立できる程度の技術を習得するためには、人一倍農業に触れる時間を多くする必要がありました。

そこで、私は休みよりも農業研修を行うことを優先しました。農業研修先である村田農園代表と話し合い、平日 8:30～17:15 以外も農業研修をさせて頂くことにしました。

もちろん自分の為ではあるのですが、一方で、自身が農業経営を開始するためにじっくりと構想を練る時間が欲しいと思うことはありました。

事業を始めるにあたって重要なプロセスとなる経営理念を言語化する作業は、自分の内側に問いかけていくので十分な時間が必要です。しかし、日中は農作業に従事していたため、就農計画作成のために充てられた時間は、農園での研修が終わった夜でした。作った就農計画も時間に追われる中急いで作成していたため、しっかりと作り込めていない感覚があります。時間は自分で作るものですので有効活用ができていない自分に大いに反省点があるのですが、新規就農に向けた準備作業も業務として見れるような、フレキシブルな勤務時間調整ができればより良いと感じます。

(2)子育て中のお母さんに地域おこし協力隊業務は難しいか？

勤務時間についてデメリットを感じる点はもうひとつあります。これは私自身の経験ではないのですが、地域おこし協力隊の制度について市役所の方と話していた際、私の妻も隊員となって子どもとの暮らし・移住についての情報発信ができないか、というお話を頂きました。

移住してきた子育て世帯として、子育て支援センターのイベント内容や日々の暮らしについて情報発信ができるととても有意義ですが、地域おこし協力隊は平日 8:30～17:15 まで市役所のデスクで勤務することが前提となります。親子参加型のイベントを含めて子どもとの暮らしの情報発信をするためには子どもを保育園に預けなければならないという矛盾が発生してしまうため、結果的に協力隊としての活動は難しいですねということになりました。

5. 業務内容(農業研修)

○農業研修をとおして得た成果

(1)年間を通したいちごの栽培技術と農作業の技術習得

村田農園で修行をさせて頂いて技術を習得すること。研修における一番の目的です。

栽培技術・農作業を覚えるにあたって、私が一番重要だと感じているのは「体で覚える」ということです。

いちごの収穫の仕方などは「手で覚える」仕事ですし、ハウス内の温度管理は「感覚で覚える」のが基本で、補完的に気温センサーで状況判断する。という順序が重要だと感じています。

現場がなにより一番で、併せて理論で理解する。ということですね。

また農作業は細やかなプロセスがあり、ひとつひとつの仕事が本当に難しく、研修期間中では体得できないことは多いです。基本を学び、あとは自分の農地で実践的に習得していくこととなります。研修での経験を大切にして、自分の農地で失敗を繰り返して、技を自分のモノにしていこうと思います。ひとつひとつの仕事の丁寧さ、積み重ねがいちごの美味しさに繋がっていくのだといつも感じています。「神は細部に宿る」という言葉に共感をおぼえます。

(2)農園の経営に必要な知識・スキルの醸成

「農家」になる。とは「個人事業主として農業経営を行う」ということです(※私の場合は、まずは個人事業で営農をスタートし、後に法人化を検討することを予定しています)。生産者としてのビジネスにおいて必要な知識を習得してスキルを磨く必要が有ります。契約・仕入・受注管理・販売・物流・経理・労務など農園経営に必要な事柄を勉強させて頂きました。

経営面では、私が会社員時代に得た知識や経験を活かすことができるということを実感できましたので、これは安心材料にもなりました。

○年間スケジュール・作業内容

いちごの収穫シーズンは 11 月から翌年 5 月までですが、農作業は年間を通して様々な仕事があります。

大きくは「土づくり」「苗づくり」「ハウス整備」「収穫・出荷」に分類できるかと思います。

季節に応じて仕事内容が変化し、1年の中でこの時期にしかやらないという仕事も多くあります。また収穫シーズン中でも、1日として同じ天候の日はありませんので管理も毎日変化します。毎日が貴重な経験です。

ここでは年間の作業内容をまとめ、主だった仕事をピックアップして紹介していきます。

【年間スケジュール】

月	主な作業	内容
6	土作り	<ul style="list-style-type: none"> ・前作片付け・次作に向けたハウス整備 ・土の太陽熱消毒 ・苗の増殖・生育管理
7	苗作り	
8	ハウス整備	
9	苗の定植	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基肥散布 ・ 畝立て ・ 苗の CO2 防除 → 定植 ・ ハウスビニール張り、マルチ張り
10	ハウス整備	
11	収穫 出荷	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収穫 ・ 選果 ・ 受注・出荷管理 ・ 生育管理(苗・水分・肥料・温度・CO2 濃度 他) ・ 経営管理業務 ・ 次作の苗づくり
12		
1		
2		
3		
4		
5		

〈6月～8月〉土作り、苗作り、ハウス整備

① 片付け

いちごの収穫シーズンは11月から翌年5月。新しいシーズンは6月から始まります。

6月は、前作の片付けからスタート。この時点では、ハウスの中にはまだまだいちごが実っています。次作の準備のために、涙を飲んで片付け作業をします。

水の供給を止めてハウスを閉め切ると、いちごたちはやがて枯れていきます。



この状態から水の供給を止めて、ハウスを閉め切り高温にします。



見事に茶色い景色に。いちごさんありがとう！お疲れ様！

トラクターでいちごを株ごと漉き込み平らにします。



土作りにとても重要な米糠、菌体、堆肥を畑に散布したのちに、太陽熱消毒に取り掛かります。

米糠の散布



堆肥の散布



この堆肥には村田農園のノウハウが凝縮されています。
村田代表の長年の研究によって複数の資材をブレンドしたもので、1年の熟成期間を経て、この時期に散布をします。「土作りは1日して成らず」を体感します。

米糠、菌体、堆肥を丁寧にトラクターで鋤き込んだのち、灌水の用意をしてから土にビニールをかぶせます。





ここから太陽熱による消毒がスタート。日中のハウス内気温は 60℃を超えます。

② 苗作り

6月から本格的に今作用の苗の手入れが始まりますが、この苗は昨年秋からいちご収穫ハウスとは別の育苗ハウスでずっと育ててきたものです。業者からさっと苗を購入すれば今作開始できるということではありません。「苗作りも1日して成らず」です。

いちごは「ランナー」という自分の分身をつくることで増殖していきます。この性質を利用して、ひとつの親株から約 20 株の定植苗(=畑に植える苗)を作ります。



麦わら帽が最高に似合う技能実習生アルディ氏。同氏右側の大きい葉っぱの株が親株。この親株から発生するランナーを手前のポットに受けて、定植苗を作っていきます。



定植苗が植わっているトレイの様子。村田農園ではこの時期に約8万株の苗を作ります。8万株の苗を全て手作業で丁寧に作っていきます。膨大な数の苗を作るために、丁寧な作業の中でスピードを鍛える必要があります。生育ステージに応じて管理は変化します。また苗に病気が発生したことを見逃してしまい、他の苗に広がってしまったら今作のいちごが作れなくなってしまい取り返しがつかなくなります。病気を早期発見する目も養っていかなければなりません。



彼らはインドネシア バリから来ている外国人技能実習生。日本で技術を学び本国の産業に活かすことが制度上の目的ですが、仕事をしてお金を稼ぐということも重要な目的です。若いながらバリから日本に行く決意をして、最初は言葉も多くは分からない中、農業を学びながら仕事をして、稼いだお金を家に送り一家の経済的な柱となっている。私は、自身が彼らと同じ20代の頃、家族に仕送りをするために海外へ渡航するという発想自体持ち合わせていませんでした。彼らを尊敬しています。

バリの実習生7人に対して日本人研修生(私)は一人。作業中はバリ語が飛び交い、日本人がマイノリティな世界。そんな世界をととても気に入ってます。かけがえのない仲間たちです。

〈9月～10月〉苗の定植、生育管理、ハウス整備

① 定植準備

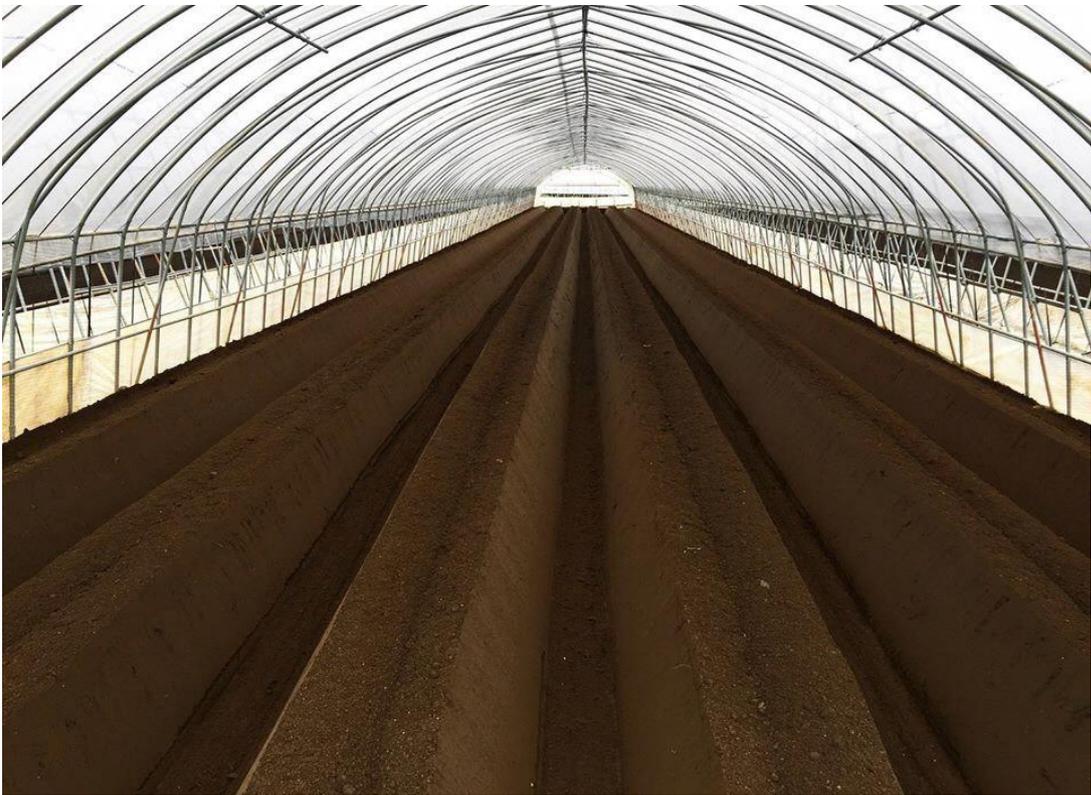
太陽熱消毒が完了したハウスで、定植の準備をします。

土の上に被覆していたビニールを剥がし、土壌分析によって設計した成分を配合した肥料(基肥)と土壌改良材を土に鋤き込みます。



基肥を鋤き込んだのち、いちごを植える畝を作っていきます。





真っ直ぐに立った畝の光景は圧巻で、芸術品のようです。エジプトの遺跡のような印象も受けました。

② 苗の CO2 防除

いちごの定植(=育苗してきた苗を畑に植えること)は9月の中旬。定植に向けた準備が本格的に始まります。

定植前、育ててきた苗に「CO2 防除」という作業を行います。育苗ハウスで育てられた苗には小さな虫が付着している可能性があり、これが定植後に葉や芯を食べてしまうためいちごの品質・収穫量が低下してしまうリスクがあります。

CO2 防除とは、定植前の苗を高濃度 CO2 ガス装置内に 24 時間密閉することで、苗に潜んでいる虫たちを窒息させリスクを下げるすることができます。リスクが下がることでシーズン中の農薬使用量を減らすことができます。

CO2 防除用の空間準備。特殊なシルバーシートの上に骨組みをつくります。



育苗ハウスで苗をコンテナに入れている様子。炎天下の中、8万株の苗をコンテナに入れる作業です。当然、苗や葉を傷つけてはいけません。丁寧にに入れていきます。



苗を入れたコンテナを先ほどの空間に運び、骨組みの下に積みます。



シルバーシートで骨組みを覆い、CO₂ ガスを注入。シート内を CO₂ 濃度約 60%に調整し、その状態を 24 時間キープします。

③ 定植

CO2 防除が完了したら、いよいよ畑に苗を植えていきます。定植です。



苗を植える場所に目印をつける人、苗を配る人、植える人と役割分担をしながら定植作業を進めます。

苗を植える間隔、深さ、角度、向き、全てに意味があります。

定植が済んだ畝にはすぐに配管と灌水チューブをつなぎ、水をかける準備をします。





畝の真ん中に伸びている黒いチューブが灌水チューブです。チューブには針穴ほどの穴があいていて、ここから水が細かくでます。写真を撮った時はチューブから上がった水によってきれいな虹がかかっていました。



④ ビニール張り

いちごの定植が終わると、収穫に向けたハウスの整備を行います。

収穫用のハウスは、被覆するビニールを毎年新しいものに交換します。

1年の間でビニールには汚れがつき、ハウスに降り注ぐ日射量が落ちるためです。植物は光合成をするために光・水・CO₂が必要であり、光(=日射量)は生育に大きく影響を及ぼします。TVや新聞などでも「今年は曇天が続いたために野菜が不作」といったニュースを目にする機会があると思いますが、植物の生育において日射量はとても重要なファクターです。



ハウスの長さは 50m。ハウスを被覆するビニールは大変な重さです。とてもひとりでは持ち運ばなく、何名ものスタッフでハウス北端から南端まで引っ張っていきます。かなりの重量と、このビニールはこれから約1年使用するためずれのないよう慎重に作業をしていく必要があります。一方で、少しでも風が吹くと 50m のビニールが煽られて作業が中断します。風の無いタイミングで迅速に進めていかなければなりません。

村田農園のハウス棟数は本舗と育苗ハウス合わせて 47 棟。年に一度のこの仕事は農園の一大イベントです。



ビニールを被せたあと、両側の長さを合わせてピンと張って固定します。



張り替えが終わったハウスは光が良く入り、清々しい空間です。

⑤ マルチ張り

10 月中旬には、ハウスではいちごの蕾が確認できるようになってきます。この頃からマルチという黒い薄手のビニール資材を畝に張る作業が始まります。マルチを張る大きな目的は「保温」。銚田市の冬場の最低気温は氷点下になり、寒い日はマイナス 9℃程度まで下がることもあります。日中の気温と太陽光で地温を上げ、夜から朝にかけての温度低下に耐えるためにこのマルチは欠かせません。

まずは畝の頂上にマルチを乗せていきます。いちごの株を傷つけ無いように丁寧に。



次に幅が広いマルチを畝と畝の間に伸ばしていき、先に引いている畝頂上のマルチに留めます。留める作業に使う道具は文房具でおなじみのホチキス。パチパチと留めていきます。





ハウス南北の両端もしわの無いよう丁寧に留めます。しわがあると歩いている時に破いてしまう原因となり、また隙間が開いて土が見えていると、そこから雑草が生えてきてしまいます。ピンと張ってマルチを留めることはとても重要です。見映えも良くてとてもきれいです。



⑥ 内側のビニール張り

ハウスの冬支度を進めます。上記の④で作業したビニール張りはハウスの外側のもので、今回はハウス内側のビニールを張ります。

ハウスの内側にも、外側と似た骨組みのアーチパイプが刺さっています。ハウスは2重構造になっているのです。

これは、厳冬期に「ウォーターカーテン」という保温システムを使うためです。ビニールを2重構造にして、外側と内側のビニールの間にスプリンクラーで井戸水を流して、内側ビニールに水をかける方法です。井戸水の温度は地域の平均気温に近いと言われています。銚田市の平均気温は15℃程度なので、氷点下の寒さでも水温によってハウス内を保温できる効果があります。



内張りはウォーターカーテンを出す際はスプリンクラーの水を受けるため、作業中にビニールに穴が空かないよう気をつけます。





気温が暖かい時は、このようにくるくると内張り被覆を真ん中へまとめることができます。太陽の光を良く取り入れることができます。

〈11月～5月〉いちご収穫

① 収穫作業

11月の中下旬から、いよいよいちごの収穫が始まります。

収穫は「収穫」「株の管理」「ハウス内の環境管理」が主な作業です。全ての作業が難しく、一朝一夕で身につく仕事ではありません。こつこつと「経験」を積み重ねることが最も重要だと感じます。

収穫は、傷つけずに丁寧にいちごを摘み取ることが大切です。いちごはとてもデリケートな果実で、少しの衝撃でも傷がつき、出荷が出来なくなってしまいます。長い時間をかけて育ててきたいちごが、収穫時の傷のために出荷できなくなるということはとても悲しいので、丁寧に摘み取るスキルは必須です。

収穫は素手では行わず、薄手のニトリル手袋を着用します。両手でなるべくいちごを触らないように丁寧に摘み取ります。いちごは生育ステージによって大きさや形(≒等級)が変化しますので、今日はどの等級が多くて、これからどのような等級が「増えていくか/減っていくか」ということを把握しながら収穫します。お客様から頂く注文に対してお受けできる数量や提案する内容を考えるためです。



②受注・出荷管理

収穫したいちごは等級別に丁寧にパック詰めをして、お客様へお届けします。

お客様の属性は一般の方・フルーツ専門店・レストラン・市場・輸出業者など多岐にわたり、それぞれに受注・出荷の手続きが異なります。日々変化する受注状況と、出荷スケジュールについて漏れのないように管理することが重要です。



村田農園の商品ラインアップ写真。味・サイズ・形などで等級を分けパック詰めをします。

受注・出荷管理は私が担当していて、エクセルでデータベースを作成し運用しています。いつ（日付）、だれが（顧客名）、何を（品名）、どれくらい（数量）、いくらで（金額）、どのように（来園頂くのか/発送するのか）ご購入されるか、また支払い方法について管理をしています。

お客様から注文を頂いた際はこのデータベースに情報を入力して、ここから今日・明日の注文内容をピックアップした表を作成します。作成した表を朝の全体ミーティング時にスタッフ全員で共有して、パック詰めの作業に取り掛かります。

出荷年月日	お客様名	ご注文品名	数量	単位	単価	合計	未着/決済	備考	受付日	お支払方法	送り状発行	発送(受取)	請求書発行	お支払
2020/3/7	A様	赤小1p	5	パック		0	未着	未着PM	2020/3/2	当日現金				
2020/3/7	B様	赤中2p	1	ケース		0	未着	未着PM	2020/3/2	当日現金				
2020/3/9	C様	赤DX20	2	枚		0	発送	発送 翌日AM着	2020/3/9	請求書(掛売)	済	済		
2020/3/9	D様	赤EX15	2	枚		0	発送	発送 翌日AM着	2020/3/9	請求書(掛売)	済	済		
2020/3/10	E様	やよいひめDX20	12	枚		0	発送	発送 翌日AM着 とちでもOK	2020/3/7	請求書(掛売)				

エクセルデータベースの抜粋。お客様からのご注文を入力して一元管理します。

2020/3/30				2020/3/31				用意でき次第	
Customer	Order	数量	Note	Customer	Order	数量	Note	Customer	Order
A株式会社	EX15	6 枚	発送 翌日AM着	F株式会社	大/A 4p	10 ケース	来園12:00頃 タイ仕様棚包	I様	特選 大4p x 5
Bレストラン	やよいEX12	10 枚	発送 翌日16-18時着指定	G様	やよいDX20	4 枚	発送 翌日AM着 とちでもOK	J様	4p x 5 内容別途TEL
C様	特選 大4p	2 ケース	来園 14:00頃	H株式会社	冷凍苺1kg	10 ケース	来園 15-16時頃	K様	特選EX15 x 2枚
D様	白苺4p	3 ケース	発送 翌日AM着						
E様	特選 中4p	1 ケース	来園 15:00頃						

データベースから当日・翌日その他をピックアップした表。これをスタッフ全員で共有します。



注文内容を共有して、パック詰め優先順位を確認しています。

また、このデータベースで掛売り顧客への請求書作成・入金確認も行っています。情報を一元管理すると用途を広げることができるので便利です。またエクセルで作っていますのでカスタムも容易です。

一方、デメリットとしては私仕様にカスタムしているため、特殊なルールを作っていて汎用的でない点や、ファイルが壊れてしまうと元に戻すことが困難な点が挙げられます。

私が担当している仕事を他のスタッフに引継ぐため、エクセルの操作と合わせてクラウド会計ソフトの利用を検討しています。クラウド会計ソフトはユーザーマニュアルが整備されているし、クラウドに保存すればファイルが壊れるというリスクも無いためです。しかし、クラウド会計ソフトは汎用的に作られているため、やはり冗長・不足の機能があります。痒いところに手が届くのは自身で作った専用のデータベース。一長一短ある点をどのようにやりくりしていくかが今後の課題です。

③温度管理

収穫時は「収穫」「株の管理」「ハウス内の環境管理」が主な作業で、それぞれに多くの細かい状況判断があることをお伝えしました。ここでは「ハウス内の環境管理」の中の温度管理について特筆したいと思います。

収穫期間の 11 月～翌 5 月は、秋・冬・春の季節をまたぎます。気候の変化と毎日の天気も変化しますので、ハウス内の環境は刻々と変わっていきます。いちごの生育に適切な温度を保つことは想像以上に難しいです。日中の温度管理は、前述した外側と内側の 2 重のビニールをカーテンのように開閉することでコントロールします。

日差しの強さと外気温によってふたつのカーテンを開けるタイミングと開閉度合いを変化させて管理をするのですが、この塩梅が非常に難しく感じています。

同じ外気温でも、晴れと曇りではハウス内気温は全然違います。風向きによってもハウスの東側・西側のカーテン開閉量を変化させます。

また、たとえ寒い日でも直射がいちごに当たると果実の温度が必要以上に上がってしまうため、良く陽が射す東側の内側カーテンは全開にしないで途中で止めて日除けの役割をさせるなど、考えることがたくさんあります。カーテン開閉のタイミングと開閉量は千差万別。正解が常に変わるし、そもそも正解が分かっていない自分は村田代表に「開けるタイミングが早すぎる！遅すぎる！」といつも指摘されています。みなさんも農場に行く機会がありましたら、「この農家は今日は外側カーテンは東側を 10cm 開けていて、内側は西側だけ全開か。なるほど」など、ちょっとマニアックな世界を楽しむのも良いかもしれませんね。



ハウスの外側カーテン。東側を 10cm 開けて、西側は閉めている様子。



内側カーテンの東側。直射による果実温度上昇を抑えるために、東側のカーテンは少しだけ開けて、日よけの役割を担っています。



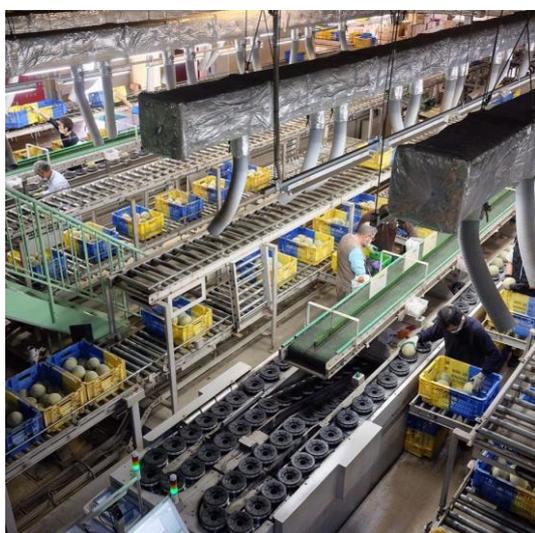
内側カーテンの西側。冬場の西陽は強くないため、東側よりも開閉量を大きくしています。

6. 業務内容(情報発信)

地域おこし協力隊の業務である「地域の魅力向上に関する業務」では、SNS を通して銚田市のおすすめスポット情報・行事参加・イベント情報などを発信しました。

いくつかをピックアップしてお伝えさせていただきます。ご興味がありましたら、私の Facebook・Instagram をチェックしてみてください。

【メロン JA 茨城旭村 メロン選果・出荷場の見学】 [令和元年5月17日(金)]



日本一の産出額を誇る銚田市のメロンは春～秋が出荷の季節です。生産者が気持ちを込めて育てたメロン。濃厚な甘みと香り。とてもおいしいです。

今回、メロン生産の一翼を担う JA 茨城旭村の青果物管理センターを見学させていただきました。



同センターでは現在1日あたりなんと 8~9 万玉を選別・出荷しています。5 月下旬頃からピークを迎える予定で、そのときには出荷量は1日で 10 万玉にもものぼるそうです。

JA 茨城旭村のメロンは特別な等級があります。それは「極(きわみ)」という等級。

メロンの等級は熟連検査員の目視、内部品質センサー(糖度・熟度・酸度等)と外観センサー(着色・形状・ネット密度等)によって厳しく分けられていて、その中でも外観が美しく且つ糖度 18 度のものに「極」という称号が与えられます。これは同センターに導入された特殊な品質センサーによってメロンを傷つけることなく糖度・熟度・酸度等を計測でき、糖度保証を実現したことで生まれた特別な等級です。

「極」の流通は直売を行っているサングリーン旭での販売が主で、首都圏等の市場へは受注販売のみだそうです。東京方面ではあまりお目にかかれぬプレミアムな等級は鉾田市でしかゲットできないといっても過言ではありません。



また、メロンひとつひとつに QR コードのシールが貼られていることも JA 茨城旭村の特長です。QR コードを読み込むと生産者の顔写真・お名前・品種・等級・糖度・検査日から食べ頃情報と生産者のコメントまで記載されていてトレーサビリティ+αの情報が発信されているので、QR コードを読み込みながらメロンを選んでみると面白いです。

青果物管理センターではメロン日量最大 10 万個を選別・出荷するための熟連検査員の方々のスピーディな等級分けと、大規模なオートメーション・品質・トレーサビリティ管理のすばらしさに感動しました。

メロンが店頭で並ぶまで、ここまで徹底した品質管理がされているのだということを知ると、少々値段がしてもメロン買いたくなりますね。

この感動を僕のライティングスキルで表現するのは困難なので、ぜひぜひ鉾田市のメロンを味わっていただいて、感動をシェアできればうれしいです。

【JA ほこた メロン選果・出荷場訪問】 [令和元年5月24日(金)]

イバラキング、アンデス、クインシー、なだろうレッド、キンショウ、キスミー、ゆうか、などなど
様々なメロンを産出する JA ほこたへ訪問し、お話を聞かせて頂きました。

ピーク時の出荷量は日量 9 万玉を超えるそうです。

銚田市はこだわりを持っておいしい作物をつくられている農家さんはもちろん、それを支える
出荷インフラが整っていることは大きな強みだと思います。



こちらの JA はメロンの等級分け・箱詰めを農家さんの方で実施するスタイル。

農家さんにてメロンの収穫、等級分け、箱詰めを行い JA ほこたへ出荷されます。

JA ほこたの検査員の方々はメロンの抜き取り糖度検査を行い、また選果された等級が正しい
かどうかのダブルチェックを行います。

チェックを通過したメロンはバーコード管理のもとで写真のおおきなベルトコンベアに乗って
仕分けされて、様々な市場へ出荷、お客様へ届けられます。見かけたら是非ご賞味ください。



【ファミリーjoin day at 鹿島サッカースタジアム】 【令和元年6月30日(日)】

鹿島アントラーズ vs サンフレッチェ広島の来場者へ銚田市、鹿嶋市、潮来市、行方市、神栖市の特産品をプレゼントするイベントに参加させて頂きました。

岸田市長も駆けつけ、大盛況のもと銚田市の水菜・小松菜・ほうれんそう・チンゲンサイが来場者の方々へ贈られました。イベント後は鹿島アントラーズ vs サンフレッチェ広島戦を家族で観戦。アントラーズのサポーター席でがっつりアントラーズを応援してきました。



【大竹海岸の救助・救命活動訓練】 [令和元年7月13日(土)]



大竹海岸銚田海水浴場は 7/20(土)に海開き。

多くの海水浴客が遊びに来るなか、大竹海岸海水浴場は 20 年連続水難無事故を継続しています。素晴らしいことですね。

銚田市主催の水難事故を想定した救助・救命活動合同訓練を見学させて頂きました。

茨城海上保安部・銚田警察署・銚田消防署・大竹サーフライフセービングクラブが主体となって、巡視艇やヘリコプターも参加した訓練でした。

セレモニーではなくとも現場感のある訓練で、海開きに向けて入念に救助救命活動の確認をされている感じがして信頼感が高まります。



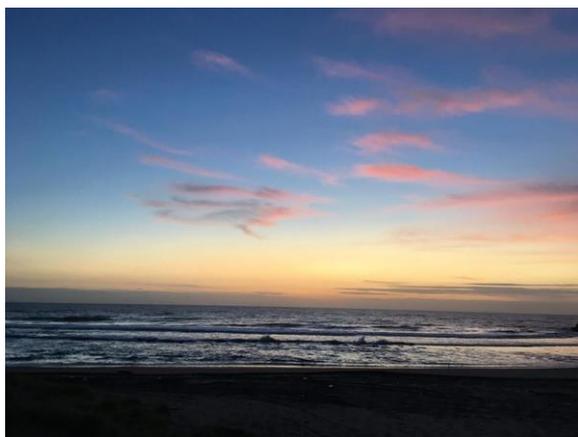
家族で見学をしているなか、どうしてもうちの子が海で遊びたくなくなってしまっぴちゃびちゃになって海遊びを。

ライフセーバーさんを始め各方面のプロに見守ってもらいながら、安全に遊ぶことができます。銚田市には他にも海岸がありますが、遊泳は救助救命体制が整っている大竹海水浴場で遊ばしましょう。

【滝浜でのサーフィンとビーチクリーン活動】

銚田市は太平洋に面していて、自宅から海まで車で15分。関東有数のサーフスポットも有しています。サーファーには垂涎の環境です。神奈川県に住む友人が銚田市に来てくれて、一緒にサーフィンを楽しむことができました。

太平洋にのぼる日の出を拝みながらのサーフィンは最高です。



友人が銚田市滝浜にサーフィンをしにきてくれた際に海岸のごみ、駐車場やトイレ等の設備や利用システムについてフィードバックと提案をしてくれたことがきっかけで、滝浜のビーチクリーン活動をやってみました。友人は他のサーフスポットの例や、ビーチクリーンイベントについても教えてくれて、何よりサーファーの生の声を聞いたことがとても勉強になりました。いざ海岸のごみに視点を向けると、すごい量。拾い甲斐がありすぎました。1時間半ほどの作業でしたが60kgほどのゴミを拾いました。



計量票兼領収証	
日時	2019年 08月24日10時15分
車番	1583 回数 17
地域	6 銚田市(船地区)
ごみ種	10 可燃 公共
搬入区分	7 委託業者
総重	810kg
風袋	750kg
正味	60kg C
単価	0円
料金	0円

ビーチクリーンを市役所へ提案させて頂いた際に、ボランティア清掃用のごみ袋の提供、分別方法の説明、ごみ処理施設の紹介と処理費用減免申請もろもろのサポートを頂きました。自費でゴミ袋を購入して作業しようと思っていたので、ありがたかったです。

ビーチクリーンを調べると全国でたくさんの活動がされていました。勉強してイベント化することも面白そうですね。

7. 銚田市に移住して、生活してみて感じたことまとめ

① 景観

畑・ハウス・田んぼ・車道をトラクターが走る農業の風景。最寄り駅の電車は 2 両編成で発着は 1 時間置き。ノスタルジックな景観です。

来銚された方はゆったりとした時間を感じることができます。

(中に入ってみると仕事現場はいつも忙しく、スロウライフではないことは内緒です)



銚田市は海に面していますので、私の家から海岸までは車で15分ほど。海のお散歩はとても気持ち良いです。

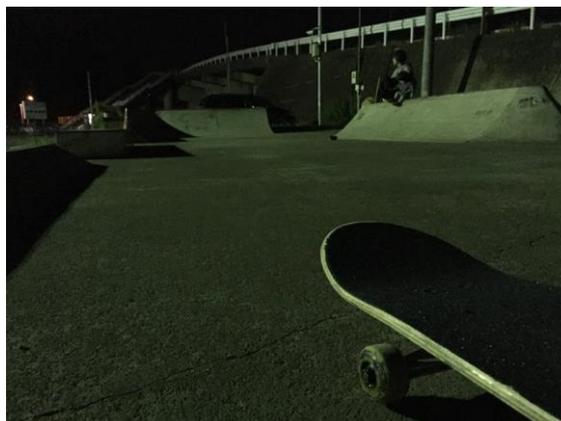


また、鹿島臨海鉄道鹿島旭駅前に、自由に遊ぶことができるスケートボードパークがあります。夕方や週末は結構人がきて、スケートボードを楽しんだりアウトドアチェアに座ってゆったりした時間を過ごしている方が多いです。



私と妻はスケートボードは通ってこなかった趣味だったのですが、大人も子どももかっこよくプレイしている光景に憧れてしまい、移住を機に夫婦でスケートボードデビューしました。妻と子と3人で、上手な友達に教わりながら遊んでいます。

横乗り 3S(サーフィン、スケートボード、スノーボード)と言われるなかのサーフィン・スケートボードの2つが楽しめるロケーション。銚田市は横乗り好きには最高です。サーフカルチャーやストリートカルチャーが銚田市で育っていくことを期待しています。



② 移動手段

移動には車が必須です。おとなひとりにつき1台は必要ですね。車移動が好きな私たち家族にとっては嬉しいことでした。

移住前の環境と比べて渋滞がほとんどなく、信号も少ないので快適なドライブが楽しめます。スーパーなど商業施設の駐車場代もかかりません。

私生活で公共交通機関を利用することはほとんどなくなりました。

都心への移動ですが、銚田市から都心へは車で2時間ほど。

慣れてしまえばそこまで遠くないように感じます。

神奈川の実家へも車で2時間半ほどで着きますので、比較的気軽に家族に会いに行くことができます。

また、銚田市(新銚田駅)と東京駅を結ぶ高速バスも運行しています。学生さんは東京に遊びに行く時はこのバス移動をよく使うそうです。片道2,000円ほどで東京へ行くことができますので、コスパ良く便利です。

③ 子育てについて

子育て支援センターのイベントはとても良かったです。

イベントはリトミック・遠足・クリスマスパーティ・餅つき・手型足型づくりなどなど本当に楽しい内容で、これを無料で参加させて頂けたことはとてもありがたかったです。

また私達の子が2歳になったタイミングで保育園への入園を検討し、素敵な保育園に出会うことができました。ご縁を頂いた鎌形保育園さんにはとても感謝しています。先生方はとても素敵なお人柄で、子どもに丁寧に接することはもちろんですが、自然と礼儀が身につくような環境をつくっていらっしゃる感覚がありました。子どもも楽しく保育園に通っていますし、信頼できる方に保育をお任せすることができてありがたいです。

銚田市での子育てで不便に感じる点は、病院や公園へのアクセスです。車移動が基本で、近くの病院までは15分ほど、公園へも20分ほどかかります。また土日や夜間などに子が熱を出してしまった場合、受入れてもらえる病院へは片道1時間ほどかかってしまいます。

移住前は東京都練馬区に住んでいましたが、歩ける範囲で多くの病院があり、公園とお散歩コースがありました。気軽に歩いていける範囲にインフラが揃っている環境は便利でした。

8. 鉾田市への提案

(1) 鉾田市による農地の保有と、市内農家への農地貸付

就農に至るまでの道のりで困難を極めたこと、それは「農地探し」でした。

自身が設定した希望条件・スケジュールに沿って計画的に農地確保まで至ることは難しく、出来る限りの行動をとって、条件が良い農地が見つかったことは「運」の要素が大きかった。これが私の実体験です。

私のように就農希望先に地の利がない人間は、農地探しはまずは公的機関への相談が一般的です。市の農業委員会や県の農業普及センター、農地中間管理機構などです。

条件の良い場所は、公的機関へ情報が伝わる前に知り合い同士で賃借・売買が行われるケースが多いこともあり、なかなか希望に合致する場所を見つけることはできませんでした。就農を1年遅らせることも検討しましたが、あらゆるツテを頼らせて頂いた結果、水戸市でご縁を頂き、同市内の農地を確保することができました。

農地探しにあたって、土地を紹介してくださった方や相談させて頂きました方へは大変感謝しています。

上記の体験があり、また私は数年前の会社員勤務時代、他県で市が農地・インフラを整備して市内農家が借り受け営農しているハウスに訪問・見学させて頂いた経験がありました。

そこで、鉾田市へは「市による農地の保有と、新規就農希望者への貸付けサービス」を提案します。

「鉾田市の篤農家さんから農業を学ぶことができ、また好条件の農地も借りることができる」技術(ソフト)と場所(ハード)の両面の受け皿を市が提供できれば、これは鉾田市の強みだと言えますし、就農希望者にとってはよりスムーズな計画立案・実行が可能になると考えます。

(2) 子育て世帯の情報発信

「4.地域おこし協力隊のメリット・デメリット」にも書きましたが、子育て中の方が地域おこし協力隊となり、子育てイベントなどの情報発信を行うことは勤務体制的に難しい点があると思います。そこで、地域おこし協力隊にならずとも、依頼したい案件毎に市が子育て中のママさん・パパさんへスポット的に情報発信のオファーをすれば、内容も多様化し面白いと思います。

9. おわりに

都内でサラリーマンとして働いていた当時は、まさか自分が地域おこし協力隊として銚田市の臨時職員をつとめさせて頂くとは想像もしていませんでした。

素敵なご縁を頂き、地域おこし協力隊を拝命して約 1 年 3 か月の活動では多くの貴重な体験をさせて頂きました。感謝しております。

今年 2020 年秋からの就農が私たち家族の新たなスタートです。これからも人生をかけた背水の陣が続きます。

「家族と一緒にいたい」「おいしいものをつくりたい」この思いが私たちの軸になっています。今後、様々な困難・壁にぶつかっていくと思いますが、その度に原点の思いに立ち返って、家族で話して、考え、行動して、乗り越えていきたいと思っています。

活動にあたり、サポートをして頂いた研修受入れ先の村田農園、村田家の皆様、銚田市役所の方々、農地のご相談をさせて頂いた方や交流して頂いた皆様へ、この場をお借りして感謝申し上げます。

私たち家族を今後も応援して頂ければ嬉しいです。

銚田市地域おこし協力隊活動報告書

発行 令和2年3月

編集発行 銚田市 総務部まちづくり推進課

茨城県銚田市銚田 1444 番地 1

TEL:0291-36-7154